

四日市市幼児教育センター

令和7年10月



センターだより



夢と志を持ち、未来を創るよっかいちのこども



四日市市幼児教育センターHP

連絡先 059-333-6002

発表 追加研修 アーカイブ配信

東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻教育心理学講座

教授 遠藤 利彦先生

「はじめの100か月の育ちビジョン」のビジョンの一つに、『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェビーイングを高める』『こどもは、おとなの「アタッチメント（愛着）」〈安心〉を土台として、「遊びと体験」〈挑戦〉を繰り返しながら成長していきます。』とあります。

「安心感が子どもの心を育む 親と保育者のためのアタッチメント入門講座」の著者でもある遠藤先生に、アーカイブ配信において、講演を行っていただくことが決定しました。

研修テーマや実施時期などは、決定次第お知らせします。

どうぞ、ご期待ください。

～実践研修 公開保育（研究）参加募集～

10月29日（水）第3ブロック・南部 笹川保育園

11月14日（金）第1ブロック・北部 認定こども園海蔵幼稚園

11月21日（金）第2ブロック・中部 認定こども園フジ保育園

公開保育実施予定の3園では、それぞれの園の職員の皆さんが、「こどもの主体性からの育ちをつなげる就学前教育・保育の展開」のテーマのもと、各園の研修テーマを軸に、それぞれの園の地域性や特色を活かし、スーパーバイザーによる園訪問研修を経て、保育の質向上を図り、幼児教育センターアドバイザーと共に研究を重ねています。

「よっかいちのこどもの未来」のために、何が必要か、何が求められているのか、こどもたち一人ひとりの自己実現のために討議していきたいと思います。「子どもとつくる2歳児保育（加藤繁美・神田英雄監修 富田昌平編著 ひとなる書房）」には、「かけがえのない自己」について、「他者とのつながりあいの中ではじめて経験し、生じるもの」とあります。保育者自身も様々な人とつながり、かけがえのない自己を築きつつ、こどもとの豊かな日々をめざしたいですね。



来る12月13日開催予定の教育・保育フォーラムにて、こども家庭庁こども家庭審議会会長（2023.4～）内閣府子ども子育て会議会長（2019.9～2023.3）文部科学省中央教育審議会教員養成部会委員・教育課程部会委員、厚生労働省社会保障審議会委員、など多数歴任されている秋田先生をお迎えし、講演およびシンポジウムを行います。

そこで、今回は秋田先生の著書を紹介したいと思います。

ぜひ、当センター図書室をご利用ください。

「秋の味覚 ごはん」でなく、「秋の味覚 ごほん」として、以下にあげました。



新 保育の心もち～まなざし～

ひかりのくに

本書のタイトルを「新 保育の心もち」にしたのは、10年を経て今「自らを新しくする」という私自身の意思と同時に、保育においては日々の暮らしの中で、温故知新という眼差しが、保育制度が大きく変わる中で必要ではないかという思いを持ち、このタイトルとさせていただいている。（著者・はじめにより）

保育の心もち2.0～新たな窓を開く～

ひかりのくに

遊びの展開の中で生まれる深い学びを、保育者がどのように待ち、見守り、付き合うのか。面白がって子どもと共に探求し、学べる保育者から、「想像性」と「創造性」のある遊びは生まれる。

「子どもから学ぶ」は「言うは易く、行ふは難し」。しかし、その学びの先に、子どもたちは輝く姿を見せてくれると確信できた事例だった。

（著者・はじめにより）

遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育 協働探究への誘い

秋田喜代美、松本理寿輝 監著 中央法規

何歳の子どもでも大人でも、ある特定のモノやコト、出来事に心動かされる瞬間が必ずあります。そのときには、五感がはたらき、注意のまなざしとその対象に向けられます。その出会いから、さらに心魅かれ立ち止まることが許されるとき、興味や関心、驚きや恐れ、知的喜びなどの情動が生じ、より深い関与としての探索や探求が始まります。時には一見止まっていたり、単純に繰り返しているように見えることもあります。しかし、そこには気づきが生まれています。

（監著者・プロローグより）